

実践報告

個別学習プログラムにおける美術教育アプローチの試みⅡ

伊 都 紀美子 ・ 木 戸 里 香

はじめに

平成19年4月より「特別支援教育」が学校教育法の中に位置づけられ、すべての学校において障害をもつ幼児・児童・生徒たちの支援をさらに充実していくこととなり、子ども達ひとりひとりのニーズに対応した教育を行うため、必要な支援を行うための手がかりとなる個別の指導計画が作成されている。しかし、平成19年9月1日現在において、文部科学省により実施された全国の幼稚園、小・中・高校を対象の特別支援教育体制整備状況調査結果によれば、個別の指導計画の作成は全体で五割強にとどまり（兵庫県は61,4%）¹⁾、その要因として「内容・方法に関する専門的知識の不足」、「学校現場の多忙さと時間確保の困難」があげられている。

本論では、学習と心理の両面においてサポートを受けたいということを主訴として、障害センターの紹介により私設教室に来室した男子小学生（以下、A君）の個別学習プログラムに美術教育アプローチを取り入れた実践について報告する。

目 的

筆者らはこの私設教室の指導者であり、カウンセラーである。A君の3年6ヶ月に渡る（開始時は週3回、その後は段階的に週2日、週1日）学習成果と面接過程をふりかえり、「先生の問いかけに答える」、「先生に話しかける」、「コミュニケーションをとろうと働きかける」、「友人関係に変化を見せ始める」、「自分以外の作品にも興味を示し始める」などの時期が、文章読解力の学習や美術教育活動を取り入れた時期以降であることに着目し、とくに美術教育アプローチという観点から、個別の学習プログラム作成について検討する。

筆者らはこれまで、発達障害児（学習困難児）に対して長期間教育支援を行う過程において、WISC-Rなどの検査結果を基に苦手な分野の知育問題と、その問題を具体的に操作するという目標を設定し、右脳の発達が左脳に働きかけるということから考えた色彩・図形の記憶、図形・注意力、推理・思考、比較・数量、知識・常識学習の検討を加えた美術教育を基底とし学習プログラムに取り入れて実践をおこなった。その結果、教科学習の理解の深度が高まり、学習進度にも変化があらわれ一定の学習効果を認めることができた³⁾。

そこで本事例を通して、A君のニーズに応じた学習プログラムを作成するために取り入れた美術教育アプローチに関する具体的指針について、概要、要目、詳細を検討することとする。

教育援助の概要

1. 教育援助期間

8歳0ヶ月から11歳6ヶ月までの3年6ヶ月間

2. 教育援助開始時における状態の概要とストラテジー

状態の概要

- ・ひとりごとをいう。
- ・テレビのコマーシャルが好きでオウム返しをする。
- ・何度も繰り返して同じことを質問をする。
- ・人の話を聞くことや話の内容を理解することが困難である。
- ・人と話をする時に目と目を合わせることができない。
- ・お辞儀をしながら「こんにちは」、「よろしくおねがいします」、「ありがとうございました」などのあいさつができる。
- ・強いこだわりを示す。(道順、物の置き方、置く場所、特定の乗り物、玩具、鉛筆の先をとがらせる、色鉛筆はグラデーションに並べる)
- ・犬や猫などの小動物を極端にこわがる。
- ・工事現場や風の音、雷の光を嫌がる。
- ・くるくる回る(クレーン行動)。
- ・ひらがな、漢字を読むことはできるが、意味を理解したり書くことが困難である。
- ・幼児期から数字に興味を示し、読む、記憶するなど記号として捉えている。計算はできるが、数の概念としての理解することが困難である。
- ・ジグソーパズル、ぬり絵、絵を描くことが得意である。とくに、ぬり絵は色のはみ出しを嫌う。友達のぬり絵をみて色がはみ出していると気になる。
- ・折り紙やはさみを使う工作は好きであるが、道具をうまく使えないために苦手意識が強い。
- ・同年代の友達とうまく遊ぶことができない。
- ・集団行動が苦手で、社会性も未発達である。
- ・衣服の着脱はできる。
- ・とても几帳面である。(靴を脱ぐときちゃんと揃える、ハンカチは忘れずに使う、友達が忘れた場合は自分のハンカチを貸す)
- ・大人の顔を常に意識し、敏感に感じとる。
- ・母親に愛情を強く求めるが、素直に自分の気持ちを表現できない。

- ・自分にとって大切な人に対しては人一倍気を遣うが、それ以外の人には我を通す。
- ・心が安定している時は、素直で優しい性格であるが、不安定な時は攻撃性が強くなる。
- ・自分の意志が伝わらなかった時は、パニックを起こす。
- ・衝動的に行動する場面がしばしば見られる。
- ・一旦食べた物を口に指を入れて吐く摂食障害のため、指にタコができています。

ストラテジー

心理面の問題点は、自立しようという意志や人間関係を持ちたいという気持ちが強いにも関わらず、それに伴う行動をとることができないために引きこもってしまうのを繰り返すことである。気分的に落ち込み、不安定になることに対しては、心理的に安定するようなA君の理解できる言葉と話し方を用いて励まし続ける中で、具体的な指示をすることとする。

行動面の問題点は、固執性を示すところである。これは情緒の安定・不安定とも関係があるので、これに対しては、時間をかけてパターン化したこだわりを少しずつ変えていく指導を行うこととする。

小動物や工事現場の音など特定のものに対する恐怖心が強いことに対しては、事態に遭遇する前に予測や見通しをたてた説明をおこなうこととする。

3. 教育援助開始時以前の経緯

専門機関でおこなった発達検査や知能検査の結果から、軽度の知的障害、自閉傾向などのアセスメントを受け、障害センターから紹介されて私設教室に来室する。

4. 教育援助開始時における心理教育的アセスメントの焦点と方法

複合的な状況や知的レベルの段階を具体的に知る必要があると判断した場合、専門家による発達検査や知能検査を行うこととする。

5. 教育援助開始時における方針と計画の概要

教育援助の基本的な方針

生活面、学習面の指導及び学習プログラム作成は、私設教室で行うこととする。

必要に応じて、養育者に対するカウンセリング、担任教師に対する教育相談をおこない、養育者から依頼された場合は、行政機関の教育相談へ同行するなどの対応を行うこととする。

学習時間については、開始時は週3回とし、学習意欲や体調に合わせて1回につき1時間半から2時間とする。その後、段階的に週2日、週1日に変更していく。

学習指導の内容

学習面の問題点に対しては、オウム返しを利用して語彙を増やす、言語発達と相互関係にある社会性の発達を促す、強制にならない程度に適切な会話の方法を繰り返すなどの指導をすることとする。

数字に興味を示すが、数概念としての理解力を育むためには日常場面で具体的な物を使用し、繰り返すことにより対応力を養うこととする。

美術においては、とくに身体像（ボディイメージ）の不完全な絵を描くことから、身体像の表現の発達が制限される、あるいは抑圧を受けるなどの要因が考えられた。そこで、適切な動機づけとして、身体に興味をもたせるために身体の部分を描く、写すなど、身体の部分に親しむ、確認するなど慣れることから始めて、少しずつ全体につながる指導を繰り返すこととする。

遊びの中から図形問題を具体的に操作し脳への刺激を与えられるように、少しずつ図形に慣れ親しみ、図形の把握と認知ができるよう、折り紙・工作・積み木遊びを個別学習プログラムに取り入れ、発達に応じた学習指導ができるように内容を工夫することとする。

学習指導上の留意点

非常に飽きやすく、落ち着いて座ることが困難となる場合は、興味を持続けることができるように教材や指導方法を工夫することが必要となる。また、集中しやすい学習環境を整えることも重要となる。ただし、集中が困難な状態が継続するのであれば無理に学習を進めることよりも、まず心理的に安定・安心できることを重視し、A君の心身の状態に合わせたペースに配慮することとする。

図形問題の具体的な操作や図形認知の学習として、積み木やトランプなど身近にあるものを教材として事前教育をおこない、異年齢集団における美術活動に取り組むことにする。美術活動中のA君による具体的な活動を観察し、できたこと、できなかったことを詳細に記録する。この観察記録を基に、A君の得意なところを基に、さらに伸ばすようにして、自信をもたせながら、苦手なところにも取り組むことを可能となるような目標を設定し、指導の手立てとし、評価をえる。また、予想されるつまづきや、つまづきにつながる教材や指導方法を検討し指針に反映させる。

観察記録

Case. 1 日時：X+2年4月（制作時間：30分） 教材：こいのぼり紙工作

具体的活動	今後の目標
<ul style="list-style-type: none"> ウロコの形に切り抜いて用意された25色の色画用紙の中から、各色を1枚ずつ選ぶ。 指導者がウロコの数が少ないことを説明しても理解できない。 糊の適量がつかめない。スティック糊のつけ方がうまくできない。 ウロコの一部に糊付けすることができない。 ウロコをきれいに並べて貼る。 選んだウロコの数が少なすぎて、間隔があきすぎるが、その出来栄えには気に入った様子である。 制作中じっと座っていることができない。教室中ぐるぐる回るが、自ら席に戻り、再び作ることをくり返ししながら作品を完成させる。 オウム返しが、最後まで続く。 	<ul style="list-style-type: none"> 制作にはいる前に心身の状態を観察しておく。 何をしたらよいのかわからない様子のときには、指導者が材料の扱い方を見せたり、試させたりすることが導入とへとつながる。わからないことが不安の原因となり情緒が不安定になることもある。 こいのぼりの参考作品は二つ用意したが、写真などを準備する方がより具体的な理解を促すかもしれない。 糊をのばす、端までつける、貼り方を考える、適切な貼り方（はしまでつける、一部につける）をおこなわせて、糊の適量がわかるなど、糊をつけることの経験を重ねる。 色画用紙は色紙と違い両面が着色されているので、色紙では裏に糊づけすることができる経験をする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・糊をつける時に敷く紙の上でつける。 ・また、その紙を自分で用意する。 ・色は複数色を使うことができることから、きれいにできた場合は誉める、認めるなどして、自己効力感を高める。
--	--

4名参加で、こいのぼりの紙工作をした。制作中はじっとしていることができず、すぐに席を立って教室中をぐるぐる回るが、ひととおり回ると自ら席に戻り、再び作るということをくり返し、最終的には作品を完成させることができた。オウム返しに関しては最後まで続いた。準備しておいたウロコの形に切り抜いた25色の色画用紙の中から、各1枚ずつ選び、並べて貼ることができた。選んだウロコの数少なすぎて間隔があきすぎた状態であったが、作品の出来栄えに大変満足した様子であった。糊の適量がつかめず、スティック糊の使い方に苦労するが、最後まで積極的に取り組むことができた。

観察記録

Case. 2 日時：X+2年8月（制作時間：180分） 教材：紙粘土・ホイップ粘土工作

具体的活動	今後の目標
<ul style="list-style-type: none"> ・自分のつくりたいもののイメージが「紅の豚」の飛行機とはっきりしていて、目的をもって形をつくる。 ・指先を使って細工する。 ・自分で作る手順を考えて作ることができる。 ・自分の思う形をつくる。 ・飛行機の形のバランスはよいが、羽根が重すぎて折れてしまう。ボンドで修正することを考えて、自分でボンドをつける。 ・水彩絵の具で色を塗る。 ・複数色をつくり、塗りたいところを丁寧に塗る。 ・紙粘土（ペットボトルにつけて使う）を使った二つ目の作品作りにも、意欲的に取り組む。 ・友だちの作品にも興味を示し鑑賞する。 ・制作中じっと座っていることができない。教室中ぐるぐる回るが、席に戻り、作ることをくり返ししながら作品を完成させる。 ・オウム返しを、最後まで続く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作にはいる前に心身の状態を観察しておく。 ・座る席の位置を工夫するなどして、少しでも落ち着きやすい環境を整える。 ・自分が何を作りたいのか、人に伝えることを評価し、本人に伝えてほめる。 ・早口になりがちなA君に対して、指導者はゆっくりとした穏やかで丁寧な言葉のやりとりを心がける。 ・作りたいものの特徴をつかんで作ることができるので、目的をもって形を作ることの経験を重ねる。 ・混色による色づくりの経験を重ねる。 ・今後ものを作る楽しさや喜びを知り、達成感を味わい、自己効力感を高めることによって、自信をもてるようにする。

夏休み中であつたので私設教室に通っている他の生徒の兄弟も参加し、8名一緒に紙粘土やホイップ粘土をつかう工作をした。自分の作りたいものを大好きなアニメの「紅の豚」の飛行機に決めることができ、また作り方の手順も考えることができた。飛行機の形のバランスはよかったが、羽根が重くなったため二つに折れてしまう。折れた部分は、自分で考えてボンドを使い接着するという対応ができた。彩色は、水彩絵の具をつかって丁寧に塗ることができた。ホイップ粘土は、握力が弱いと形になりにくいので、限られた時間の材料として適さなかった。扱いにくい材料であつたが、二つ目の

作品も作りたいと意欲的であった。制作時間が180分という長時間になったが、二つの作品を没頭して制作し完成することができ、大きな達成感と満足感を味わうことができた。

考 察

子どもと身体像の出会いについては、①自然の風物や動物、自動車など目に見えるもの、②親、兄弟など自分の周囲の人間、③童話や昔話などに描かれるお話の世界が基になっているといわれており⁴⁾、とくに指導者と人間関係を持とうとする意欲の現れが、身体像、意欲、心身の発達に及ぼす影響は大きいとされている。A君は、私設教室に来室する以前は対人関係をつくることに苦手意識が強く、身体像の不完全な絵を描いていた。しかし、私設教室に来室することがきっかけとなり、学校教育以外での学習に積極的に取り組むことが継続できたことや、少しずつ身体像が完全な絵や作品を作れるようになってきたところをみると、指導者との出会い、安心して学ぶことのできる環境が整えられていったこと、具体的でわかりやすい個別学習プログラムによって学習をすすめることができたことで、A君の発達や学習により効果をもたらしたのではないかと考えることができる。また、A君の学習プログラムを作成する際に、いろいろな側面から検討する観点として美術教育アプローチを取り入れる工夫が、右脳と左脳の相補的な発達により影響を与えたのではないかと考える。

作品の制作中に、時々席を立てて教室をぐるぐると走りまわるA君の様子を観察していると、一見集中力が途切れるように見えるが、筆者がA君に席に戻って制作するように促さなくても、ひととおり走りまわると心理的に安定した様子で自分から席に戻り、再び制作途中の作品を作るということをくり返したのである。このことから、A君が理解できるような制作手順を明確に説明できたことや、観察することにより「短い集中力をつなぐことによって完成に必要な制作意欲を持続させる」という独自のペースを理解し、それを認めたことがA君の心理的な安定・安心を保つ支えとなり、作品を完成することができたのではないかと推測される。作品を完成させるということは、工夫し頑張った結果として作品を手にすることができるということであり、個々の無形のものからひとつの有形のものとして形づくる造形及び創造を実感できることである。つまり、大きな達成感と満足感を感じることで、自信をもつことができ、自己効力感を高めることにつながったのである。そして、これら一連の行為の連鎖によって自己効力感が意欲を高めることになる。言い換えれば、このような作品を完成させる経験は、最後までやり遂げるという実体験であり、この体験を積むことが大きな自信となり新たな意欲になるので、学習での望ましい発達に最も必要なものとなることはいうまでもなく明らかである。とくに非言語である美術活動は、このような実体験を積むことに適した活動であり、言語活動を促進させるきっかけとなりうるものであると考える。

スティック糊、紙粘土、ホイップ粘土など材料や補助材料に関する検討不足は、触覚過敏な子どもの感覚にマイナスの刺激を与える場合や、制作意欲を損なう影響があるので注意深く留意する必要がある。例えば、同じような紙粘土を選択したつもりでも、製造所によって材質が異なるため、子どもによっては感覚的に受け入れ難いものもある。とくに感覚過敏な子どもが使用する素材に関しては、指導者が準備段階において実際に使用するなど、それぞれの素材がもつ特性、材質、安全性、事故に

つながる危険性などの吟味は、常に欠かすことはできない。

造形表現の要件は知・情・意・技であり、知（頭の働き）、情・意（心の働き）、技（身体の働き）の相補的な学習効果によるものであるが、それらは適切な動機づけが重要である。美術教育を学習プログラムに取り入れる場合、さらに題材決定は重要である。どの分野の学習が得意か苦手かを把握することにより、得意な分野を伸ばし、苦手な分野を育てるかを検討することは第一であるが、それに加えて、題材に季節感のあるものを取り入れるなど、子どもの情・意に働きかけることも豊かな美術教育活動をおこなうためには欠かすことができないものである。また、美術教育アプローチという観点について検討する場合、活動直後の詳細な観察記録の作成や、幼児の造形教育の観察結果からまとめた具体的活動及びねらい（資料１）は、子どもの意欲を伸ばしながら、発達に応じた内容を探る重要な手立てになったと考える。発達障害児（学習困難児）の指導に関しては、知・情・意・技のそれぞれに関して細かい配慮が必要とされることが多く、詳細で具体的な部分的指導が求められるので、本事例のように具体的活動及びねらい（資料１）の内容を発達に応じて部分的に組み合わせたものを用いて、長期間の教育期間を予想した内容を組み立てて指導することが望まれる。

本事例における動機づけとして、異年齢集団のもつ集団的要素が、A君の意欲に対して有効に働きかけたのではないと思われる。異年齢集団の中で相対評価をすることにより、安心したり、頑張ってみようとしたり、少し頑張らなければならないと感じることができた状況も、A君が最後まで諦めないで取り組むことができた結果によい影響を与えたのではないかと考えられるからである。

学校現場では、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成するために、盲・聾・養護学校や養護学級・通級指導教室のこれまでの実践で培われたノウハウを活用していくことは周知されているようである。兵庫県に関しては、兵庫県立特別支援教育センターが、個別の指導計画の作成に関して、通常学級の担任が簡単に作成し活用できる「個別の指導・支援表」について詳しい内容をホームページで公開してい⁴⁾るが、現場の指導者による十分な活用や応用には未だ困難な状況にあることは否めない。筆者が特別支援教育にたずさわる小学校・中学校教諭に対して「特別支援教育の問題点について」の聞き取り調査を行った結果、個別の指導計画作成に関して「問題解決のために準備されている研究会にも、時間的・経済的困難を理由に参加することが難しい」という回答が多くみられた。多忙な学校現場において、子どものニーズに応じた個別学習プログラムの作成は困難を極めている。

今後は、より一層豊かな造形教育の展開を促すため、教材の見直しや新しい素材などの開発と、現場において実際に活用しやすい指導方法を提供することを目的に、個々の子どものニーズに応じた教材や指導方法などを検討していくことを課題としたい。

（付記）

本実践報告は、研究対象児の保護者の許可を得ているものである。なお、プライバシー保護のため、本論の目的に沿った事項に影響が及ばない程度の変更を加えている。

本研究の一部は、第6回日本教育カウンセリング学会研究発表大会にて口頭発表をおこなった。

参考・引用文献

- 1) 「内外教育 2007年度の特別支援教育体制整備状況」時事通信社 2008,6,13 p.4
- 2) 伊都紀美子, 木戸里香『個別学習プログラムにおける美術教育アプローチの試み』神戸女子大学教育諸学22, 2008 p.39-45
- 3) 広瀬俊雄, 秦里絵子編『未来を拓くシュタイナー教育 世界に広がる教育の夢』ミネルヴァ書房 2006 p.161
- 4) 兵庫県立特別支援教育センター「特別な支援が必要な子どもたちのために」(2006/3)

資料1. 具体的活動及びねらい

	5 歳児	4 歳児	3 歳児	乳児：0, 1, 2 歳児
は さ み	<ul style="list-style-type: none"> 線の上を確実に切る フリーハンドで切る（応用ができる） 2枚重ね切りができる 交互切りができる・厚紙を切る はさみの歯の合わせ方に関心をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> 線の上を切ることをマスターする 基本の形をフリーハンドで切る（○△□） フリーハンドを経験する 重ね切り、交互切りを経験する 厚めの紙を切る 	<ul style="list-style-type: none"> 直線、曲線の上を切る 円を切る チョキチョキとまっすぐにすすんで切る⇔チョキンチョキンはダメ 基本の形（○△□）の作り方を知る 経験としての活動をする 教えてもらう（マスターではない） 	<ul style="list-style-type: none"> はさみのもち方を知る はさみの使い方を知る（手の開閉） 紙をすきように切る（色紙、ケント紙 程度） <p>2歳後半</p> <ul style="list-style-type: none"> 太い直線、ゆるい曲線の上を切る 偶然できた形であそぶ チョキンチョキン
の り	<ul style="list-style-type: none"> 適量がわかる ↓ 目分量ではかれる（一部、全部、小、大の面によって、のりの多少の加減ができる） 表につかないように気をつける（紙版画の基本） 適量をきれいにのぼしてつける 制作の種類に応じたのりのつけ方をする（一部、全面、裏表、のりしろなど） 工夫して貼る、作り出す（紙工作の発展）（自由制作の中にみられる） のりをつける時に敷く紙を確実に使う 	<ul style="list-style-type: none"> 適量がわかるようになる ↓ いろいろな面にのりをつけることを経験する 適切な貼り方をする 制作の種類に応じたのりのつけ方をする（紙工作）（隅々までつける、一部や全部にのりづけする、つなぐ、貼り合わせる） 色紙の裏にのりづけすることができる のりをつける時に敷く紙を自分で用意する 	<ul style="list-style-type: none"> のりをのぼす はしまでつける 一部にのりづけする つなぎ方を知る 貼り方がわかる 色紙の裏にのりづけすることがわかる のりをつける時に敷く紙の上でつける 	<ul style="list-style-type: none"> 紙にのりをつける のりをのぼす のりをつけた面を貼る どこにつけるか教えてもらってする のりをつける時に敷く紙を用意してもらう
描 く	<p>〈パス・マーカー・水彩絵の具・色鉛筆〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 自由画 指定画（見たり、想像したものを描く） 人物画（身体全体を着色、動きをつけて描く） <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 表情・動きが表現できる 特徴をつかんで描く <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 着色する（線からはみださないで色をぬる、白い部分を残さないでぬる） いろいろな線を使って描く デザインあそび 	<p>〈パス・マーカー・ポスターカラー〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 自由画（自由に力いっぱい描く） 指定画（経験したこと、見て描く） 人物画（身体全体を描く） <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 自分なりに雰囲気をつかんで描く <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 着色する（できるだけ線の内側をぬる） 線、点、丸、波線他 	<p>〈パス〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 自由画（自由に力いっぱい描く） 指定画（とにかく描くことが大事）（人物画）人の顔中心 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 形はおかしくても、自分なりに思っで描く <hr/> <p>（着色）</p> <ul style="list-style-type: none"> わくの中をぬるということを経験する はみだしてしまってもよい 	<p>〈パス〉〈クレヨン〉</p> <ul style="list-style-type: none"> なぐり描き（人物）人の顔らしきもの <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 偶然描いたものに名前をつける、描くことの楽しさ 力を入れて描く <hr/> <p>（着色）</p> <ul style="list-style-type: none"> わくは関係なく色をつける作業をくり返す たて線、横線、点々、ぐるぐる

個別学習プログラムにおける美術教育アプローチの試みⅡ

粘土	<ul style="list-style-type: none"> 目的をもって形をつくる ヘラを使って細工する 指先を使って細工する（つまみ出しなど） 紙粘土を使う（いろいろなものを作るのに使用する） バラバラの粘土を一つにまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思う形をつくる ヘラを目的をもって使う（道具としてヘラを使用） 紙粘土を使う（容器につけて使う、簡単なものを作る） こねる、のばす、まるめる 	<ul style="list-style-type: none"> 粘土で基本のあそび方をする（ちぎる、のばす、丸める、穴をあける） 粘土の感触をたのしむ 自由にすきなものや形を作る（ヘラは、おもちゃの要素が強いので重視しなくてよい） 	<ul style="list-style-type: none"> 粘土の感触に親しむ 指先、手の平を使う 保育士に手の動かし方や作り方を教えてもらう（ちぎる、のばす、丸める） 偶然できた形に名前をつける 小麦粉粘土を使う
テープ	<ul style="list-style-type: none"> セロテープ、クラフトテープ、ビニールテープ テープ類を目的の事にうまく利用して使う（～を作るために使う材料になる場合がある） 目的によって材料を選ぶ 	セロテープ（クラフトテープ） <ul style="list-style-type: none"> 目的をもって使う（～するために使う） 適当な長さを考える 	セロテープ <ul style="list-style-type: none"> テープを自分で切って紙につける 短いめで切る つなぐ、とめることを知る 	（セロテープ） 保育士の管理のもとで <ul style="list-style-type: none"> テープを指でつまんで引っ張り、切ることを経験する
紙	折る <ul style="list-style-type: none"> はしとはし、折り目をきれいに折る 山折り、谷折りがわかり、自分で折る いろいろなものを工夫して作る 本を見ながら折る 	折る <ul style="list-style-type: none"> はしとはしを合わせて折る（形） 山折りと谷折りを経験する（紙工作などで） 折り紙をする（教えてもらって作る、工夫して折る） 	折る <ul style="list-style-type: none"> 合わせて折ると形になることを経験で知る（色紙半分で長四角、三角） 保育士に作ってもらったところを見る→自分でも折りたいという気持ちをもつ、手順を知る 好きなものを作ってもらったことの重要性→自分で作ることができるようになる 	折る <ul style="list-style-type: none"> 色紙や広告紙をすきないように丸めたり、たたんだり、重ねたりする
	ちぎる <ul style="list-style-type: none"> ちぎり絵をする（具体的な形にちぎれる） 	ちぎる <ul style="list-style-type: none"> たて、横にちぎる 大、小変化をつけてちぎる 	ちぎる <ul style="list-style-type: none"> すきのようにビリビリとちぎる（指先を使って） 	ちぎる <ul style="list-style-type: none"> ビリビリとやぶる 素材に触れる
絵の具	<ul style="list-style-type: none"> 色をぬる 絵や模様を描く 複数の色を使う ボディペインティングに展開 	<ul style="list-style-type: none"> 絵の具で色を塗る 模様を描く 単色、複数色 	<ul style="list-style-type: none"> 紙に色を塗る 単色（使っても2～3色） 	<ul style="list-style-type: none"> 経験し楽しむこと絵の具を紙につける程度 単色、2～3色（赤・青・黄）
工作	紙工作 <ul style="list-style-type: none"> 教えてもらいながらも、自由活動の中で、自分で考えたり、工夫したりして作る 丁寧に作る 山折り、谷折り線をマスターする 	紙工作 <ul style="list-style-type: none"> 色を塗ったり、はさみで切ったり、のりづけしたりして作ることを経験する（きれいに仕上げることを目的としない） 山折り、谷折り線のあることを知り、やってみる 保育士の援助を受けながら作り上げる 	紙工作（切り紙あそび） <ul style="list-style-type: none"> 切ったり、貼ったりして作ることを喜ぶ（塗る事は重視しない） 	（紙工作 必要としない）
	廃材利用 <ul style="list-style-type: none"> 自由製作 共同製作 いろいろな接着材料を使って作る（のり、ボンド、テープ類、ホッチキスなど） それらを応用して作る（新しい素材を使う、新しい発想で作り出す） 	廃材利用 <ul style="list-style-type: none"> 3歳児を基礎に自由製作をする 複数の廃材を利用して作る 自分なりに工夫して作る できたものに名前をつける（何を作るか、目的をもって作っていない場合）作るという活動に重点がある 	廃材利用（わかりやすい形に変化するものを選ぶ） <ul style="list-style-type: none"> 単品を利用してちがうものに作りかえる 廃材の価値を利用して作る（空容器→マスカラ） 具体的な形につけたして作る（牛乳パックを切ったもの→船）⇒具体的にわかりやすい納得のいく形を作っ 	廃材利用 <ul style="list-style-type: none"> 廃材に、貼ったり、塗ったり、みんなでひとつのものを作る（一人ひとつずつも作る） 手伝ってもらいながら作る

			ていくこと（牛乳パックで ～ができた、スチロールで ～ができたなどのように、 何ができたか具体的に記憶 する	
自由活動	<ul style="list-style-type: none"> ・紙工作 ・ハガキ ・自由工作（新しい素材含む） ・自由画 ・折り紙，切り紙 ・粘土 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙工作 ・ハガキ ・自由工作（色紙，廃材） ・自由画 ・折り紙，切り紙・粘土 	<ul style="list-style-type: none"> ・自由画 ・粘土 ・折り紙 ・簡単な紙工作 ・シールはり 	<ul style="list-style-type: none"> ・自由画 ・粘土 ・シールはり ・紙を使ったあそび（広告紙，色紙